

【PEST 分析】 - 日本酒製造業

【P：政治的要因】

1. 酒税法・免許制度の見直し（地方創生視点）

- 地方創生支援の一環で、小規模醸造所向けの規制緩和・新規参入促進が行われる可能性あり。
- 一方で、安全性・品質担保の観点から、輸出に関する国際的な規格準拠の強化が進む可能性。

2. 補助金政策・地域振興施策

- 地方自治体による「地酒ブランド」支援（観光連携や EC 支援、海外プロモーションへの助成など）が今後さらに強化。
- ただし財政制約から、5 年以内に助成は**競争型補助金**に移行 → ブランド力・DX 力の弱い中小蔵元は淘汰リスク。

3. 地政学リスク

- 米中対立・台湾海峡有事などが、原材料（特にガラス瓶・ラベル紙など）や輸出先への物流に波及。

4. 飲酒規制の拡大リスク

- ヘルスケア重視の政策潮流で、**若年層へのアルコール啓発強化や広告規制**が進む可能性あり。

【E：経済的要因】

1. 人口減少+可処分所得の停滞

- 日本国内市場のボリューム減少は確定的。
- 特に“家庭での晩酌文化”は衰退し、料飲店ルートへの回復力にも限界。

2. 価格転嫁の困難さ

- 原材料（米・水・ボトル・エネルギー）高騰に対して、価格転嫁が難しい風潮（「嗜好品＝贅沢品」扱い）。
- 消費者は価格に敏感で、**クラフトビールやワインへのスイッチ**が進行中。

3. 円安トレンドと輸出機会

- 円安継続は輸出追い風 → 北米・東南アジア市場での中堅蔵元のチャンス。
- ただし、**現地規制や販路構築に高コスト・時間**がかかるため、「共同販社」モデルが必要。

4. 地域経済の偏在

- 地方の中でも**人口がわずかに残る中核都市**（例：松本、金沢、福山）に集中。
 - 極端に人口減少が進む地域では、蔵の維持が困難に。
-

👤 【S：社会的要因】

1. 若年層の飲酒離れと健康志向
 - Z世代・ミレニアル世代は「酔うための酒」よりも、「健康・嗜好・ストーリー重視」。
 - 「飲む理由」が明確でない酒は選ばれない → “意味のある酒”の提供がカギ。
 2. “体験・共感”消費の拡大
 - 蔵見学・酒造体験・NFT 付き限定酒など「物語のある酒体験」が支持される。
 - 観光・地域イベントとの融合がカギ → デジタル×リアル体験型施策の構築が必要。
 3. ジェンダーとアルコール文化
 - 女性・LGBTQ 市場向けの「やさしい酒」「美しさを保つ酒」など、新しい切り口の開発が進む。
 - 一方、従来型「男の酒文化」のままではブランド劣化。
 4. サステナブル・エシカルな価値観の普及
 - 瓶の再利用、エネルギー効率の見える化、有機米使用など、「環境配慮型ブランド」への転換が急務。
-

⚙️ 【T：技術的要因】

1. AI による醸造レシピ最適化
 - 気温・水質・発酵度合い・香気成分のデータを蓄積し、AI が毎年の最適レシピを導出。
 - 大手蔵ではすでに導入が進行。中小もクラウド型 SaaS サービスとして導入余地あり。
2. IoT による発酵管理の自動化
 - 発酵タンクや冷却工程の遠隔監視・自動制御で、人手不足を緩和し品質の再現性向上。
3. ラベル AR・スマートボトル技術
 - スマホで読み込むと酒蔵のストーリーや動画、地域の観光案内が見られるなど、「拡張体験」重視の設計が浸透。
4. クラウド EC・越境 D2C 販売
 - Shopify・BASE・Amazon 越境などを活用した個別発送体制構築が進む。
 - 国内では LINE 連携型 CRM でリピート購入・定期便化の動き。
5. 脱炭素技術の活用
 - 酒造時のエネルギー効率を改善する再生可能エネルギー（バイオマス・地熱など）活用も PR 要素に。

🎯 【5年後の未来予測と仮説シナリオ】

✅ 「地域再編×テクノロジー活用型蔵元」が生き残る

- 5年後の業界像：
 - 国内蔵数は現在の 1,000 弱から 600 程度に集約（半数近く淘汰）。
 - 残るのは、以下の条件を満たす蔵元：
 - 「自動化＋少数精鋭」で醸造可能
 - D2C 販路を持ち、グローバル定期購入層を抱えている
 - 地域の観光資源や文化資産と接続され、インバウンド体験価値を提供できる

📺 「無アルコール清酒」など、“第3のジャンル”が登場

- 健康志向・宗教的制約（イスラム圏等）により、「味と香りだけを楽しむ清酒」がヒット商品に。
- これは AI による香気再現技術の進化により、**「飲めない人にも愛される日本酒」**が生まれる未来。

💡 【盲点となる提案視点】

- “ノン酒類領域”との連携（例：日本酒を使ったスキンケア、香水、健康ドリンク）
- NFT 酒蔵会員権ビジネス（限定酒購入権＋来蔵特典付きなど、Web3×酒）
- 物流側の革新が鍵：低温・割れ物対策・返品管理コストなど、「物流難民」となる蔵元は多数出現予想